

第一問 次の文章を読んで、後の問い(問1～13)に答えなさい。(設問の都合上、本文の一部を省略・変更した。)

法律問題はたいていそうですが、著作権は特に絶対的解答は出にくいジャンルです。もちろん、誰が見ても明らかに駄目だとか、明らかに大丈夫というものはあります。しかし多くの場合、回答は与えられるものではなく、自分たちで考えて、見出していくほかないでしょう。人々の関連な議論が、明日の裁判所の判断にも影響を与えるかもしれません。独創とは何か。模倣とは何か。何が許されるべきで、何が許されないか、かわるすべての人々がみずから考えて、その時代なりにいちばん正解に近いと思う回答を探していくものだろうと思います。

その際に、判断の基準となるべきはなんでしょう。それは、「著作権」というものはなんのために、なぜ守られるかという視点です。法律があるから、というのでは答になりません。法律は多くの人々が賛同できる目的があつて、そのために作られるものです。これを立法目的や立法趣旨といいます。みなさん、(中略)著作権、いったいなんのために存在する権利だと思われませんか。

これにはいろいろな意見があつて、まず、自分が創作した作品について勝手に真似されたり、利用されないのは当然だから著作権があるのだ、という考え方があります。自然に与えられた権利だというので、「自然権論」などと呼ばれています。

ところが、もうひとつ見逃せない存在理由が著作権にはあるのです。その目的は、著作権法自体の「ボウトウ」、第一条に記載されています。

この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

(著作権法第一条)

「文化の発展に寄与すること」が目的だと謳っています。つまり、著作権法とは文化シンクウ法なのです。人々がよい作品を作りやすい環境を整える、われわれの社会で芸術文化が活き活きと息づくための土台を作る——そのために著作権は存在しているのです。

歴史を振り返っても、著作権は決して古い法律や制度ではありません。(中略)セルバンテスやシェイクスピアの生きた十七世紀やそれ以前には著作権という権利はおおむね存在しませんでした。

十五世紀のグーテンベルクによる活版印刷の発明以後、次第に印刷術が普及して、元の出版業者らが知らないところで作品が出版されることが増えてきたため、無断印刷の取り締まりが

国語 1

必要とされるようになっていきましたが、それも、最初は出版業者の特許という、今とは違う形で守られていました。やがて、著作人自身に作品の出版や上演をコントロールできる権利を認めるべきだという考えが強まって、「著作権」という「ガイン」が生まれたのです。最初の著作権法は十八世紀初頭の「アン女王法」というイギリスの法律という事になっています。

ところで、なぜ、他人の作品を無断で出版したり真似ることがいけないのでしょうか。無断利用や盗作は作家の心情として許せないということはもちろんその通りですが、それだけではなく、海賊版や盗作を許していると、創作が細るからです。新しい作品を生みだそうという土壌が育ちません。

というのは、(中略)『ドン・キホーテ』の例のように、よい作品が生まれるとすぐにその海賊版が出まわる。あるいは、誰かが真似をして模倣作を書く。多くの人は海賊版でもかまわないから、入手しやすい、安い方を買いますね。そうすると、理論的にはその分オリジナルの売上げが落ちます。また、真似をして書かれた模倣作が売れる分、オリジナルの売上げが落ちることもあるでしょう。

海賊版や模倣作がいくら売れても、オリジナルの作家や出版社の収入にはまったくありません。ところが、作家や出版社にとつては、書く作品や刊行する作品全部がヒットするわけではありません。失敗作や売れない作品を書きつづけ、あるいは刊行しつづけるなかで、わずかな例外がヒットするのです。本来はそこで、それまでの失敗作や売れなかつた作品による損を取り戻す。別な言い方をすれば、ヒット作で稼いで、それで食い繋いでまたヒットするかどうかわからない作品を生みだしていくのです。

ところが、そうした労苦の末にたまたまヒット作が出て、誰かが海賊版や模倣作で売上げを横取りしてしまったら、たいした蓄えはできないですね。そうした状況では、作品を生みだしつづけるのは難しくなります。むしろ、誰かが新しい視点や感覚でヒット作を生みだすのを待っていて、その海賊版や模倣作を作る方がずっと割がいいという話になりかねません。ここで「今でもそうだろう」という声が聞こえてきそうです。あるいはそうかもしれませんが、そういう「ただ乗り」(フリーライド)が、今よりもっと自由に大っぴらにできるようになる、ということですね。

そんな社会では、創作が細るだろう、ということです。それでも作品を生みつづける作家や芸術家は、いるでしょう。しかしそれは、時間もお金もある人々の「特権」か、パトロンに抱えられるか、あるいは命を削って貧困のなかで作品を作りつづけるという意味であり、それだけでは作品を生みだす土壌としては「決して理想的とはいえません」。

「だから、海賊行為や他人の模倣は違法であるべきだ。そういう目的のために著作権はあるのだ」という考え方があります。人々に作品を生みだすインセンティブを与えようということ、こういう考え方を「インセンティブ論」といいます。つまり、勝手に海賊版や模倣作を

国語 2

れないようにして、それでオリジナルな作品を創作するクリエイターたちにインセンティブを与え、彼らを育てよう、それが著作権の存在理由だ、という考えです。

壮大な社会実験

筆者は「創作へのインセンティブ」という点は著作権の本質的な意義だと考えています。正確にいえば、それは著作権の重大な存在理由であり、しかもいまだに仮説の域を出ていないのだと思っています。ある意味では、私たちの社会は（日本でいえば）百年以上にわたって、著作権という壮大な社会実験を続けているともいえます。

なぜならば、単に作品を作りやすいという意味では、著作権などはない方がはるかにやりやすいともいえるからです。現に、他人の作品を見たり聞いたりすると私たちはイマジネーションを刺激されますね。人によつては、「私は他人の作品から借りたものなんか何も無い」と断言できる方もいるかもしれませんが、おそらく多くのクリエイターは、他人の作品をイメージの大きな源泉にして自分の創作活動をおこなっているのではないのでしょうか。

（中略）

だから、著作権など気にせずに、他人の作品から自由に拝借して、組み合わせたり入れ替えたり、少し手直ししたり大きく飛躍したり、制約なしに作品を作ればそれが創作にとつては理想的な環境かもしれません。元々表現活動は自由なはずで、表現の自由は市民社会にとっていちばん根源的な、大切な自由です。その意味では誰が何を表現しようが自由という方が本来で、特定の表現を禁止できる著作権の方が、異例な制度といえなくもないのです。

実際、（中略）シェイクスピアばかりでなく、モリエール、スタンダール、近くはピカソやブレヒト、誰もが ココン の作品から自由に拝借して、数々の作品を作りあげました。そんなことは、少なくとも十八世紀くらいまでの文学者、芸術家たちはみな（J）、今よりも自由によつていたのではないか。無論、やりようによつては批判されます。法律的な問題になることもなかったわけではないようです。しかし少なくとも著作権侵害で差止めを受けたり、タイホ されたりはしなかった。なぜなら今のような著作権法がなかったからです。

そのなかでシェイクスピアもモリエールも、あれほど 矢継ぎ早 に傑作を生みだしていきました。見方によつては、彼らは翻案の天才だったといえるでしょう。仮に現代にシェイクスピアが登場しても、もうあの戯曲はほとんど書けません。原作の権利者から翻案の許可が下りないか、高額な権利料を請求されてしまうからです。演劇史上の傑作といわれる戯曲が、著作権法誕生前に書かれていたことは無視できない事実です。

しかし、印刷技術が飛躍的に普及し、作品の複製法や流通網が発達した時代では、自由に創作できるメリットよりも、勝手に海賊版や模倣作を流布されるデメリットの方が大きい。だから、無断の複製や翻案を制限しよう、そうすることが芸術文化を育むはずだ、という前提で著

国語 3

著作権は正当性を認められて、その内容は次第に強化されてきたのだと思います。たとえば著作権が保護される期間は、当初はごく短かったものが何倍にも延長されてきました。

万一この前提が間違っていて——つまり実験が失敗して——「著作権があることで芸術文化はかえって細ってしまった。つまらない作品ばかりになってしまった」ということにもなれば、著作権は根本から見直さなければならぬ。少なくとも、より効果的に働くように変革する必要があります。その意味で、筆者は著作権というシステムそのものが、全世界規模の壮大な実験だと思うのです。

（福井健策『改訂版 著作権とは何か 文化と創造のゆくえ』による）

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部A「法律があるから、というのでは答になりません」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 企業がビジネスの過程において守るべきは社会のルール全般で、法律だけを守っていればよいというわけではないから。
- ② 企業は新たな商品やサービスが仮に法律に違反するものであっても、株主の利益になる限りは新たなビジネスに挑戦すべきだから。
- ③ 法律は通常、内閣が提案し、国会で決定されるもので、国民や裁判所は国会の議決に従う必要はないから。
- ④ 法律問題には絶対的な回答があるわけではなく、法律は多くの人々が賛同できる目的のために作られるから。
- ⑤ 著作権は他の法律の分野と異なり、なかなか竹で割ったような答えを持たないだけに、法律を無視した議論が必要だから。

問3 傍線部B「自然権論」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 創作者に権利を与えて、これを保護することは物理的な現象で、著作権法はそのことを確認するために規定したものであるという考え方。
- ② 創作者が自分で創作した作品を勝手に利用されないように、著作権法で定めるべきであるという考え方。
- ③ 創作者が作品から生計を立て、その生存権を保つには、著作権法で作品の無断利用を禁じるべきであるという考え方。
- ④ 他人による無断のコピーを禁じ、創作者が作品から利益を得られるようにするために、著作権が認められているという考え方。

国語 4

⑤ 伝統芸能を継承し、日本固有の文化を保つには、著作権を法律で守るべきであるという考え方。

問4 傍線部C「もつて」と同じ意味を持つ語句を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① つかんで
- ② それによって
- ③ やがて
- ④ 生来
- ⑤ 第一に

問5 傍線部D「謳って」と同じ意味で使われているものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① わが人生の春を謳う。
- ② 主権在民を謳う。
- ③ 名選手と謳われる。
- ④ 太平の世を謳う。
- ⑤ 天才と謳われる。

問6 傍線部E「ただ乗り」(フリーライド)とあるが、ここでの例として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 他人の作品がヒットするのを待って、自ら創作する労力を節約すること。
- ② 乗り降りする駅付近だけ乗車券を持って、途中区間の運賃を節約すること。
- ③ 違法ダウンロードサイトを利用して、適法なサービスの利用料を節約すること。
- ④ 他の作品から着想を得て、一から創作する手間を節約すること。
- ⑤ 他の人と一緒に創作して、独力で作り上げるための時間を節約すること。

問7 傍線部F「決して理想的とはいえません」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① クリエイターがパトロンなくして作品づくりに没頭できない現代では、自由な創作もできないから。
- ② クリエイターが時間やお金に余裕のある人か自分の生活を犠牲にできる人だけになつてしまうから。
- ③ クリエイターがヒット作ばかりを生み出すわけではないのは、作品づくりに強いこだわりがあるから。

国語 5

④ クリエイターは自分で作品を一から創作するよりも模倣をする方が簡単にお金を稼げ、これを促進すべきだから。

⑤ クリエイターが創作できるのは「特権」のおかげで、多くの人々にその「特権」が与えられるべきだから。

問8 傍線部G「インセンティブ論」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 他人が作品を模倣したくなるような動機は与えない方がよいので、著作権を認めるべきであるという考え方。
- ② ユーザーは放っておくと安い海賊版を利用したくなるので、違法ダウンロードは罰するべきであるという考え方。
- ③ 創作とは金持ちの「特権」なので、クリエイターは一層の経済的支援を受ける必要があるという考え方。
- ④ 作品は模倣の対象となりがちなので、著作権によって他人の利用を制限し、クリエイターのやる気を喚起させるべきであるという考え方。
- ⑤ クリエイターは貧困に陥る可能性があるため、公的資金を投入し、クリエイターの創作意欲を高めるべきであるという考え方。

問9 傍線部H「著作権などはない方がはるかにやりやすい」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 先人の作品を尊重するためには、イメージションの根拠を示せば十分だから。
- ② 著作権を主張するためには、著作権のマークを付けるなど事務的に煩雑だから。
- ③ 我々は、他人の作品から影響を受け、自らの創作意欲が刺激されているから。
- ④ シェイクスピアが偉人として評価されるのは、他人の模倣をしなかったから。
- ⑤ 著作権法が禁じるべき行為は海賊版で、翻案は禁じるべきではないから。

問10 傍線部I「異例な制度」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 民主主義社会では国民の自由が尊重されるので、著作権によって個人が行う表現活動を禁じるべきではないから。
- ② 民主主義社会では公共の利益が尊重されるので、著作権という個人のわがままを許すべきではないから。
- ③ 表現の自由は重要な人権で、誰が何を表現しようが自由なので、著作権は憲法に違反しているというべきだから。

国語 6

- ④ 表現の自由とは自由な報道を保障するもので、著作権によって特定の政治的立場に基づき表現が禁じられるべきではないから。
- ⑤ 表現の自由とは民主主義を支える人権で、文化とは無関係なので、著作権が憲法に違反するというわけではないから。

問11 (J) に入る言葉として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 最大公約数的に
② どんぐりの背比べで
③ 多かれ少なかれ
④ 細大漏らさずに
⑤ 猫も杓子も

問12 傍線部K「矢継ぎ早」とあるが、これと同様に武具を使った慣用句とその意味との組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 矢も楯もたまたらず (他人から非難され、いたたまれないこと)
② 刀折れ矢尽きる (補給などの支援が足りないこと)
③ 鎬を削る (勝つために努力を惜しまないこと)
④ 矢でも鉄砲でも持って来い (自信があり、いかなる課題にも積極的に取り組むこと)
⑤ 兜を脱ぐ (相手の力を認めて降参すること)

問13 傍線部L「筆者は著作権というシステムそのものが、全世界規模の壮大な実験だと思のです」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 著作権制度はいつの時代にも存在したというわけではなく、文化の発展のために人為的に設けられた制度で、現状を当然視すべきではないから。
② 著作権制度が成功しているか否かを不断に検証した結果、その期間が延長されてきたので、今後も延長すべきであるから。
③ 著作権制度が成功しているかどうかはつまらない作品が多いか否かなので、つまらない作品には著作権を与えるべきではないから。
④ 著作権の根拠としてクリエイターの自然権が挙げられるので、クリエイターが何を望むかによって制度を変えていく必要があるから。
⑤ 著作権の根拠はクリエイターに創作のインセンティブを与えることで、模倣を完全に撲滅できるかどうか問われるから。

国語 7

第二問 次の文章を読んで、後の問い(問1～15)に答えなさい。(設問の都合上、本文の一部を省略・変更した。)

正月の五日をすぎると、連日、空から白いスタレでも垂らしたように雪が降った。街はずれの山ぎわにある私の家はとくに雪が多く、勤めに掛ける前に一度、玄関から道路までの雪をはね、帰ってきてからも同じところの雪を空き地へ運んだ。妻は、これでも昼ころ一回、雪を捨てたのに、とぼやいた。

雪がやんで白っぽい太陽が見えた日曜日、兄嫁から電話がきた。

「婆ちゃんさ、家にばっかりいたらボケが早いんだって。少しよそへ出てって気兼ねする人と話してれば緊張するからボケないんだとき、これから二人を連れてくからしばらく置いてよ。」

兄嫁の声は笑っていた。そばに父母がいて、その二人に聞かせるように喋っているのか、いつもより大声だった。私は、いいいいいいよ、と言ったあと耳から受話器をはずし、妻を振り返った。義姉さんからだ、と言う。妻がすばやく受話器をとって耳へ当てる。

妻の返事の様子で、兄嫁が私に言ったことと同じ言葉を繰り返しているのがわかった。

「そうよ、そうなんだ、すぐ連れてきて、一カ月でも二カ月でも好きなだけいてもらおうからさ。」

妻が言った。部屋の隅へ腹這いになって本を読んでいた息子が起き上がり、誰がくるって？と私に聞く。反対側の隅にいた小学四年の娘も起き、じいちゃんたちくるの？と小声で聞いてきた。私がうなずくと二人は、やったあ、おこづかいもらえるぞ、と叫んだ。

「なに言ってるんだ、このあいだお年玉もらったばかりだろ。」

私は腕む真似をしてから石油ストオプの上のヤカンをとり、キュウスへ湯を入れた。娘が、お婆ちゃん、すぐ忘れるから、たぶんもう一回くれるんだ、と笑う。息子が、そうだ、と言って喉で笑った。

電話を切った妻が、さあ、よけてよお、掃除だ掃除だ、と言いながら立ち上がった。視線が部屋に散らかっている子供らの本や私の寝間着の上を動きまわる。獲物を見つけた。息子に玄関前の雪をきれいはねるように言いつけ、娘には茶の間を片づけたあと玄関を掃いて靴を揃えろと命じている。子供たちが口を尖らせて肩をすくめ、のろのろと本を閉じた。私は音をたてないように茶を啜った。

「お父さんはとりあえず二階からお客さん用の蒲団を二組おろして。」

妻の声は生き生きしている。私の両親のための仕事で、私が断われないことがわかりきっているからに違いない。

「わたしは先に買い物に行ってくるから、その間に茶の間の掃除しといてよ、クリイナで丁寧ね。」

国語 8

誰に言っているのかと妻のほうを見ると、娘に向かって喋っていた。娘がふくれつつらをして勢いよく立つ。歩き方が荒々しく、妻が、なに、その態度、と怒鳴る。私は湯呑み茶碗を置くと息子を振り返り、やるかあ、と言いなから立った。まだ本の表紙を見ている息子が、うん、と気のない返事をする。

暗くなりかけるころ、兄嫁が車を運転して父母を連れてきた。いくぶん腰の曲がった母は、兄嫁に腕を吊り上げられて玄関へはいつてきた。壁に掛けてある絵や下駄箱を見まわし、ここはどこだや、と言った。

上りがまちへ出迎えに出ていた子供たちが自分の口を手でふさぎ、笑いをこらえるしぐさをする。あとについてはいつてきた父が、なに言つてんだや、息子どこへきて、と笑った。父は濃い茶の背広にネクタイをしている。眉をきつく寄せた母が私や子供たちを見、そうか、と言った。しかしわかっている表情ではない。

妻がおおげさに、さあさあ、と言つて母の軀をかかえ、茶の間の長椅子へ連れてきた。兄嫁が衣類などの詰まった紙袋を壁ぎわへ置き、電気毛布や寝間着もはいつてるから、と言った。妻が息子に、じいちゃんに灰皿出して、と言つ。兄嫁が私に、父母が昨夜は私の妹のところへ泊まり、その前日は姉の嫁ぎ先、その前は次兄の家へ泊まってきたのだと説明する。

——タライ回しにされてるみたいで、なんだか妙な気分だや。
父がネクタイの結び目を気にしながらソファへ坐つた。照れ笑いの顔だった。
——へんなこと言わんでよ、家にばっかいてテレビばっか見てて、いいわけないしよやね。

兄嫁が笑つて私に相づちを求め眼をした。ほんとだ、と私は言った。いまでも年に一回、二回、私の家や次兄のところへ泊まりに出ることはあったが、ほとんど一泊しただけで長兄夫婦のところへ帰っていた。外にいる娘には気兼ねがあつて我儘できんのよな、と長兄は言った。

眼もとに笑いをにじませた妻が、こんどこそは一月くらい泊まつてもらいますからね、と父母を見た。命令する口調だった。父母は聞こえなかつたみたいに黙つたまま、部屋の中を見まわしていた。

私はコップを三つと栓抜きを持ってきてテエルの横へ坐り、娘に、ビール持つてきてくれ、と言つた。妻が、あ、婆ちゃんにはあの梅酒買ってあるから、と言つ。私が教えておいた銘柄だ。

母が自分の持ってきた布袋の中をしばらく掻きまわしていたあと、二つのノシ袋を出して私の子供たちに渡した。これ、ちよべつとだけど何か買え、と言つた。笑いもせず、他人を見る眼だった。去年あたりはまだ孫を見る眼つきをしていたのだ。おそらく母はこの家に二人の子供がいることなど忘れてしまつてはいるはずだから、父が言ったのかもしれない。しかしその父

が十日ほど前にお年玉をくれたのだから、やはり母が父に、これから行く家に子供が何人いるかを聞き、父がとめるのをふりきつて袋に入れたのかもしれない。

息子が両手を後ろへ回して私の顔を見、このあいだもらつたから、と後ずさる。娘も兄の動作を見ながら同じ格好をした。

——いいから、もらつとけ。と父が言った。

私のほうに向いた子供たちの眼の中を迷いが動きまわつた。ずるい視線だ。私も困つたという表情をつくつて口をチャツと鳴らし、二人にうなずいてみせた。それから母に向かつてくどくどと、気をつかうことはないんだからというふうなことを言った。

ノシ袋の下のほうにボオルベンの下手な字で、じいちゃん、ばあちゃん、と二列に並べて書いてあつた。母の字だった。この字を書くときは孫にやるということをわかつていたのかもしれない。そのときの母の眼を見たかつた気がした。

父は日本酒を飲み、私はビールにした。兄嫁が帰つたあとしばらくのあいだ、私は勤め先で課長になつたことや手当てが上がつたことを話した。話題が切れると私は、かつて父母が百姓をしていた村の人たちがどうなつたかを話して聞かせた。父と同年配や若い人が死んだことを教えると、父は頭を大きくひねつて鼻を吸つた。酔いで赤くなつた眼を天井へ向け、あいつがかや、と言つたりした。喉に痰でも引つかつたように声がかすれた。

母は父の横に坐つて梅酒のはいつているコップを見ていた。ときおり、ゆっくりとそのコップを口へ運ぶ。台所で食べ物を作つては皿で運んでくる妻が、婆ちゃん、食べなきゃ駄目ですよ、これおいしいんだから、と言つ。冷えかけた茶碗むしの蓋をとつて母の手に持たせている。母は、うん、うん、とうなずいている。

母はきてからまだ一度も私の名も妻の名も口にしていない。もちろん私の子供たちの名前も呼んでいなかった。

父は一升瓶の酒を四合くらいあけて舌がよく回らなくなつた。私はビールを五本飲んでいたら、長椅子へ横になつていた母が、おれ、もう寝る、と言つた。私が子供のころから母は自分のことを、おれ、と呼んでゐるのだつた。

茶の間の横にある床の間のある座敷へ父と母の蒲団を敷いてきた妻が、母に風呂へ入れてあげるからと言つ。母が、怪訝な顔つきをして父を振り返つた。どういふことかわからないという表情だ。私はこつそり唾を飲んだ。父が酔つた口調で、ゆんべはいつたからいいべ、と私の妻に言う。それから、わしも寝るでや、と言つて立つた。よろけた。

妻が母を立ててトイレへ連れてゆく。腰を曲げ、前屈みになつてチョコチョコと小刻みに歩く母の格好は、一歳くらいの幼児の歩行みたいに頼りなかつた。私は母の小さい後ろ姿から視線を落とした。ビールを自分でつぐ。眼に薄く膜でもかかつたようにぼやける。頭の底へ、濃紺のモンペに地下タビをはいた母が馬に引かせたブラウ(※)で畑起こしをしている姿が浮

かぶ。長い手綱を肩から脇の下へ掛け、口を鋭く鳴らして馬を追っていた。盛り上がった土が引っくり返って黒土になり、その上を母が跳びはねるようにしてプラウの柄を押して歩く。私が四、五歳のころだった。また、畑Mのわきの山ぎわで、母がノコトマサカリを使って二かかえもある立木を切り倒している姿も見える。片方の腕だけ着物の袖を脱ぎ、木の根元へマサカリを打ち込む母の顔から汗が飛び散った。一つだけ刺き出た乳房が大きく揺れ動いた。父と母を寝かせるとすぐ、私と妻は茶の間の電気を消して二階へ上がった。子供たちは先に寝ていた。妻が私たちの蒲団を敷きながら小声で、婆ちゃん、おとなしくなっていましたかえ、と言った。しんみりした口ぶりだった。息子が生まれた当時、妻は子供の育て方などで母に怒鳴られつづけてきたのだった。

——あれくらいでちょうどいいんだ。

私は片方の口尻を下げてにが笑いをした。

雪になったのか外は静かだった。隣の部屋から子供たちの寝息が聞こえてくる。私はしばらく顔の上に積み重なっている闇に向かって眼を開いていた。眠気はあるのに、頭の芯に明るいものが残っていた。妻の呼吸ももう眠りにはいつてゆくとときの気配だった。

※プラウ：鋤くわすき。

(小樽山博「帰って行く母」による)

問1 傍線部A「いつもより大声だった」とあるが、このときの兄嫁の様子として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① よそへ出ず家にはかりいた結果、記憶障害が早くなってしまう老人を馬鹿にしている。
- ② 気兼ねのない人と適度に交わりながら、緊張も含んだ楽しい会話をすることを予感している。
- ③ 何を話しても、いいよいいと話を軽く受け流してくれる私との語らいを楽しんでいる。
- ④ すぐ近くにいる義父母に今後の話がよく聞こえるものになっているかどうかを意識している。
- ⑤ 雪を捨てたのにとほやきながらも、実際には白っぽい太陽のように輝かしく華やかな表情をしている。

国語 11

問2 傍線部B「獲物を見つける眼」とあるが、このときの妻の様子として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 息子や娘があなたも動物であるかのように見えている。
- ② のんきに茶を啜ろうとする私をうらやましそうに眺めている。
- ③ 動きまわる視線が定まらないために、その様子が人間離れしている。
- ④ 自分の意のままに操れる子供たちを奴隷のようにみなしている。
- ⑤ 子供たちの本や私の寝間着を片づけさせたがっている。

問3 傍線部C「娘がふくれつづらをして勢いよく立つ」とあるが、娘がそのように振る舞った理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 母が決まってもいるかのように「なに、その態度」と怒鳴り散らすのに耐えられなかったから。
- ② 母の命令口調にうんざりしているし、また、繰り返し同じことを言われるのがうっとうしくもあつたから。
- ③ 母は口数では絶対に勝てないほど早口なので、逆に無言の抵抗を試みる方が得策だと思ったから。
- ④ 母に対して、部屋の掃除はしないという頑なな態度を飽くまでも明確にしたかったから。
- ⑤ 母がいつも傲慢な態度で迫ってくるので、もはやこれ以上我慢できなくなっていたから。

問4 傍線部D「笑いをこらえるしぐさ」とあるが、この説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 子供たちは、ここがどこかが分かっていくせに白々しい態度を取る祖母が面白かった。
- ② 子供たちは、眉をきつく寄せた祖母の顔と間の抜けた口調とがアンバランスに思えた。
- ③ 子供たちは、なじみの場所に来ている事実を理解しないかのような祖母の様子が可笑しかった。
- ④ 子供たちは、父へのあふれる愛情をどこまでも照れ隠しする祖母が奇妙であると感じた。
- ⑤ 子供たちは、祖母から思いのままにおこづかいがもらえらると思うと、非常に嬉しかった。

国語 12

問5

- 傍線部E「タライ回し」とあるが、この言葉の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 母の滞在先をころろ変えるように、物事に対して責任をもって処理せずに次々と送りまわすこと。
 - ② 家にばかりいて、朝から晩までテレビのチャンネルいじりをするように、いつまでもぼんやりと同じ動作を続けること。
 - ③ 照れ笑いの顔を隠して横を向くように、現在の自分の表情を他人に分からなくすること。
 - ④ 気兼ねもせずに我儘ばかり主張する人間を追い出すように、嫌いなものを排除すること。
 - ⑤ 妹のところから姉の嫁ぎ先、次兄の家といったように、あちこちに泊まって旅行気分を味わうこと。

問6

- 傍線部F「眼もとに笑いをにませた妻」とあるが、そのときの妻の様子として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 義母が認知症でも患っているかのように奇妙な言動ばかりを繰り返している姿に接して、面白さを感じている。
 - ② あちらこちらをせわしなく泊まり歩いている義母を今度こそは長期間受け入れようという心の準備が既にできている。
 - ③ 兄嫁が笑っている様子に引き込まれるかのように妙な気分になってしまった心の状態が露わになっている。
 - ④ 家においてテレビばかり見て、変なことを口走る義母を今度こそは意のままに操れるという優越感に浸っている。
 - ⑤ 命令する口調を覆い隠すためには何らかの演技が不可欠だったので、晴れやかな雰囲気装っている。

問7

- 傍線部G「笑いもせず、他人を見る眼だった」とあるが、このときの母の様子として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 経済的に余裕がなく、無理をしている。
 - ② 自分がおこづかいを度々あげたという記憶を喪失している。
 - ③ 愛情表現に対して真剣である。
 - ④ 何が可笑しいのか分からず、怒りに満ちている。
 - ⑤ 相手が血のつながった孫である事実を認識できずにいる。

国語 13

問8

- 傍線部H「父がとめるのをふりきって袋に入れたのかもしれないなかった」とあるが、私がおのように思った理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 母の意識が一層混濁してきた事実を子供たちに悟らせてしまうと、彼らがどんどんお金を巻き上げようとするので、躰によくないと思ったから。
 - ② 私は常識的な金銭感覚の持ち主なので、むやみやたらとお金を人にばらまくのはよくないと思ったから。
 - ③ いつも父の言うことを否定し、自分の我儘を押し通そうとする母を許そうと思ったから。
 - ④ 母が孫にお金を二重に渡そうとしているので、認知症が進行してしまっているのではないかと思ったから。
 - ⑤ 喧嘩になると常に父が折れることでしか收拾をつけられなかった両親の夫婦関係を想像して、どうしようもないと思ったから。

問9

- 傍線部I「ずるい視線だ」とあるが、私に子供たちはどのように見えたか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 子供たちにはお金をもらって悪くないのかという迷いよりも、もらってしまえという願望の方が勝っているかのように見えた。
 - ② 子供たちが迷いの中で一体どのように振舞うのがこの場合に最もふさわしいかが分かっていないように見えた。
 - ③ こんなに大きな金額のお金を子供たちがもらってしまったら、彼らの将来に与える影響が大きすぎるように見えた。
 - ④ 母が何を話しても正確に反応しなくなっていることに対する諦めが子供たちには強くなっているように見えた。
 - ⑤ 子供たちの金銭感覚が狂ってしまうことによる不都合な近未来が暗示されるかのように見えた。

問10

- 傍線部J「そのときの母の眼を見たかった気がした」とあるが、そのときの私の気持ちとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 著しく現実認識力が低下している様子を眼の状態から判断したい。
 - ② 金銭管理能力をもちや失い、知能がどの程度まで衰えてしまったか確かめたい。
 - ③ 下手でも一生懸命字を書く姿に孫を認識できていた頃の母を感じ取りたい。
 - ④ 真剣に文字を書いても手振れしてしまう哀れな状況をしっかり自覚しておきたい。
 - ⑤ 視線が定まらず、うつろな感じから想像できる老いの程度を把握したい。

国語 14

問11 傍線部K「酔いで赤くなった眼」とあるが、このときの父の眼中にあった人物として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 私
- ② 村の人
- ③ 孫
- ④ 次兄
- ⑤ 長兄の嫁

問12 傍線部L「怪訝な顔つきをして父を振り返った」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① そんな手の行き届いた親切に甘えてもいいのかと半信半疑になっているから。
- ② 浴槽が深いので、溺れてしまうのではないかと気が持ちが前面に出ているから。
- ③ 自分を子供扱いしないでといったような勝気な気持ちで満たされているから。
- ④ もう眠いので、構わないでほしいのにといううんざりした心境になっているから。
- ⑤ なぜそんなことを言うのか理解できず、助けを求める気持ちになっているから。

問13 傍線部M「畑のわきの山ぎわで、母がノコとマサカリを使って二かかえもある立木を切り倒している姿」とあるが、このときの母の様子として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 着物の袖が脱げるほど薄着で山を走っている。
- ② 大自然の中を野生のように原始的に動き回っている。
- ③ 困難に挑戦し続けるチャレンジ精神を持っている。
- ④ 危険と向き合いながら一途に働いている。
- ⑤ 暑さに強いので汗が飛び散っても気にならないでいる。

問14 傍線部N「しんみりした口ぶり」とあるが、妻がそのようになった理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① いつもがみがみとうるさい義母が寝入ったことが分かって、何となくほっとして息をつけたから。
- ② 義母のいつにないおとなしさに影響を受けて、思わず静けさを味わいたくなっていったから。
- ③ かつて大声を出していた様子とは似ても似つかぬくらい老い衰えた義母の姿を見て、寂しくなってしまったから。

- ④ 外が静かになったことが分かって、落ち着いた気分に入る余裕を持てるようになったから。
- ⑤ 夜の闇に雪がしんと積もっているのを見て、もの悲しい気持ちをふと感じていたから。

問15 傍線部O「頭の芯に明るいものが残っていた」とあるが、このときの私の様子として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 恐らく母はしっかりとした意識を保っていてくれるに違いないと思い、不思議な感覚の芽生えに晴れやかさを感じている。
- ② 静かになった母と静かな夜の雪景色が調和し、落ち着いた気分を取り戻せた自分にほっとしている。
- ③ 母の記憶が薄れていくのにも似た眠気を自覚しつつ、意識を失うまいとして闘っている。
- ④ 慈しみ育ててくれた母の老いを受容すると共に、これまでの関わり方に自信を深めている。
- ⑤ 口では母の老いを認めつつも、本当のところでは過去の生き生きとした母が心の中に浮かび上がってきている。

第三問 次の文章を読んで、後の問い（問1～12）に答えなさい。（設問の都合上、本文と図表等の一部を省略・変更した。）

地図読解力の個人差

地図学では、地図作製者の意図が読み手にうまく伝わるような地図表現がおもな関心事であったといえる。その場合、不特定多数の読み手を想定して、読み手のスキルや性別といった個人差は不問とされることが多かった。また、地図を読み取って思考や推論を行うような複雑で高いレベルの認知過程に対する関心も乏しかった。

一方、心理学では地図を用いた知覚や認知に関する研究が行われてきた。ここでは、地図そのものの内容や表現への関心は低いものの、読み手の側の条件や詳細な認知過程が主たる関心事となっていた。最近の研究では、地図の読図や利用が地図自体の特徴よりも、読む側の状況に左右されるという見方が支配的になりつつある。つまり、同じ地図でも読み手のスキルや持っている知識によって、伝わる情報も異なる可能性が高い。

1枚の地図から誰もが同じ情報を読み取っているわけではないことは、^A地図の読図にみられる熟達者と初心者との比較を行った研究結果にも、端的に現れている。たとえば、ある研究では、被験者は市街地の地図と広域の地方の地図を学習した後で、地図を描いたり地図上で経路を探すことを求められた。その結果を初心者と熟達者で比較すると、二つのグループの差は、注意の向け方などに表れたものの、課題の成績自体にはつきりとした差はみられなかった。

この研究で地図の利用経験による違いが明瞭でなかった原因には、用いた地図が簡単だったことも考えられる。そこで、より専門的な技能を必要とする等高線入りの地形図を用いて追試した研究は、初心者と熟達者との明確な差を見だしている。また、別の研究では、『ナショナル・ジオグラフィック』誌に『^Aケイサイされたやや複雑な主題図を用いて、高校生と大学の地理学専攻生による読図過程を比較したところ、地図利用経験による明確な差が見いだされている。

この他にも、初心者と熟達者の間での地形図の読図の仕方を比べた研究は少なくない。たとえば、読図の際の眼球運動を調べて熟達者の方が地図の特定の領域をじっと見る時間が短いこと、オリエンテーションの熟達者と初心者の間では地図に基づく推理の仕方に違いがあること、熟達者が地図に描かれていない事実を文脈や知識に基づいて推理できること、地形図から景色を想像する課題で地図利用経験が影響することなどが明らかにしている。

このように、地図を利用するスキルの差によって読図の仕方に違いがあることは明らかである。しかし、前述のように、地図の種類によってもその現れ方は異なるため、ナビゲーション、測定、視覚化といった地図の用途による違いを考慮しながら、その影響を^Bギンミする必

要がある。

地図から得られる空間的知識

では、地図から得られる空間的知識には、他の情報源からの知識と比べてどのような違いがみられるのだろうか。

地図を通して取得した空間的知識の特性は、おもに移動行動から得た知識との比較を通して検討されてきた。（中略）ここでは、「出題者注：地図から得た空間的知識の特徴として、」

- (1) 認知地図のスタイル
 - (2) 正確さと個人差
 - (3) 空間を捉える視点・参照枠・向き
- の三つの側面に分けて、それぞれの特性を述べてみたい。

(1) 認知地図のスタイル

^C空間的知識にはいくつかの異なるタイプがあり、ランドマークの知識、ルートの知識、配置の知識に大別される（中略）。ランドマークの知識は、対象物や場所が何であるかを表す「宣言的知識」の一種で、空間学習の初期に獲得されると考えられる。ランドマークの系列が理解されると、次にルートの知識が形成される。これは問題解決のためのノウハウを含む「手続的知識」の一種で、経路探索やルート学習に不可欠のものであるが、通常は意識されることはない。配置の知識は、対象物や場所の空間的關係についての情報からなる。これは、直接移動できない地点間の関係を含んでおり、近道を探したりランドマークを指示したりするのに利用される。

一般に、移動行動で得られる地理空間情報からはルートの知識が作られ、それをもとに形成される認知地図はルートマップ型になる。これに対し、地図から得た情報は配置の知識になり、サーベイマップ型の認知地図を形成する。ただし、ルートマップ型の地図を学習した場合には、ルートの知識が獲得されることもある。そのため、^D形成される空間的知識は、学習に使用する地図の内容や表現によって影響を受けると考えられる。

(2) 正確さと個人差

地図と移動行動から得た空間的知識の間には、このようなスタイルの違いがみられ、一般的には移動行動から形成される認知地図の方が、個人差も現実の地図との違いも大きくなる傾向がある。つまり、地図を用いた空間学習の方が移動行動による場合に比べて、サーベイマップに近い認知地図を形成しやすく、また空間的知識を他者と共有するのにも地図は有効であるといえる。

このことの裏付けの一つとして、サーリネンらの研究がある。この研究では、大学生に書いてもらった手描きの世界地図を集めて分析した結果、回答者が用いた情報、バイトと手描き地図の正確さに関連性がみられた。地図から情報を得た者ほど正確な地図が描けることが明らかになったのである。

(3) 空間を捉える視点・参照系・向き

移動行動から得られる空間的知識は、対象となる空間を地上の視点から捉えた自己中心的な空間を捉える枠組み(参照系)に基礎を置いている。これに対して、地図を通して獲得した空間的知識は、対象の外部にある単一の視点からみた対象中心の参照系に基づくと考えられる。そのため、地図を通して形成される認知地図は、読図の際の地図の向きに影響を受けて、向きが固定されたものになることが予想される。このとき、学習時の地図の向きと、地図利用者が身を置く現実の環境に対する身体の向きとが一致しないと、地図と現在地を対比するのが難しくなる。

こうした現象は、一般に「整列効果(alignment effect)」と呼ばれている。たとえば、建物内の避難経路図や街角の案内図を見たとき、身体の向きと地図の向きが違っていると読み取りにくいと感じるのは、整列効果がはたらくからである。そうした現象は、移動行動によって形成される空間的知識ではみられないものである。このことから、地図の読図から形成される認知地図は方向が固定されているのに対し、移動行動による認知地図は自由に方向を変えられることができる(中略)。

ただし、地図の向きを変えながら学習した場合は、方向によるバイアスは生じないことがある。そのため、認知地図の向きが固定されているかどうかは、必ずしも地図が移動行動かという情報源によるのではなく、空間を学習する際の状況に左右されると考えるべきだろう。

地図を通して空間認知にみられるこうした性質は、同じ内容や表現の地図であっても、使用される状況によっては伝達される情報の性質に違いが生じることを表している。たとえば、地図の向きを身体の向きに一致させる「整置」が効果的かどうかは、使用される場面によっても違ってくる。つまり、整置が有効なのは、歩きながら地図を見て針路を判断するような状況、ソクオウ的な課題を解決する場合であって、都市全体といった広い空間を対象に行き先を選ぶような場面では効果的でない。

これは、地図が描く空間の規模にも関係する。たとえば、電車内で車両の進行方向に合わせて駅名を並べて整理した路線図は、読み手に混乱をもたらすことはないだろう。しかし、ホームに設置された鉄道路線図で、描かれた範囲が広い場合、見る人の向きに合わせて整理すると、かえって混乱することがある(中略)。これは、地図に描かれた範囲が広域になるほど上が北の地図を見慣れているため、それ以外の向きを上にとされると理解しにくいからだと考えら

れる。

日本では、街中の案内図は見る人の向きに合わせて整理されていることが多いが、海外では必ずしもそうではない。しかし、先ほどの例からわかるように、常に整理すべきかというところともいえない。このため、案内地図の向きについては、状況に応じて使い分ける必要がある。その点で参考になるのが、案内表示や案内地図などの公共サインのデザインに対する指針を示した大田区の基本計画である。この計画では、おおむね2万分の1より大縮尺の近隣地区を表す地図では整理を基本とするが、それより小縮尺の地図では北を上にした地図を「スワイショウする」といった、縮尺に応じて異なる指針が示されている。

(若林芳樹『地図の進化論——地理空間情報と人間の未来』による)

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部A「地図の読図にみられる熟達者と初心者との比較を行った研究」とあるが、これらの研究のうち、熟達者と初心者との間で結果に明確な差がみられなかった研究として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 熟達者と初心者が、専門的な技能を必要とする等高線入りの地形図を用いて読図をする課題を行い、その成績を比較した研究。
- ② 熟達者と初心者が、地形図の読図を行い、その際の特定の領域に向けられた眼球運動を比較した研究。
- ③ 熟達者と初心者が、地図に描かれていない実際の様子を地形図から文脈や知識に基づいて推理する課題を行い、その結果を比較した研究。
- ④ 熟達者と初心者が、地図利用経験が影響しやすい地形図から景色を想像する課題を行い、その結果を比較した研究。
- ⑤ 熟達者と初心者が、範囲の異なる簡単な地図を学習した後で地図に関する課題を行い、その成績を比較した研究。

問3 傍線部B「端的に」とあるが、その意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① あらゆる面から
- ② 細かく
- ③ 遠回しに
- ④ 何度も
- ⑤ はっきりと

問4 傍線部C「空間的知識にはいくつかの異なるタイプがあり」とあるが、空間的知識とその具体例と考えられるものとの組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

【空間的知識】 【空間的知識の具体例】

- ① ランドマーク 福岡ドームの北側から左側に曲がって進むと福岡タワーがある。
- ② ルート 福岡空港から地下鉄に乗って二駅先に博多駅がある。
- ③ ルート 福岡市から真西の方向には中国がある。
- ④ 配置 福岡工業大学は私立の四年制大学である。
- ⑤ 配置 福岡県庁は一九八一年に現在地に移転している。

問5 傍線部D「形成される空間的知識は、学習に使用する地図の内容や表現によって影響を受ける」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 簡単な地図と複雑な記号が入り組んだ地形図とでは、形成される認知地図のスタイルが異なること。
- ② 空間的知識である配置とルートは、それぞれルートマップ型の認知地図とサーベイマップ型の認知地図のどちらも形成しうること。
- ③ 地図からは配置の空間的知識が作られることが多いが、移動行動からはランドマークの空間的知識が作られやすいこと。
- ④ 地図利用経験が豊富な人ほど、ルートよりも配置の空間的知識を地図から獲得しやすいこと。
- ⑤ ルートマップ型の地図からはルートの空間的知識が得られることもある一方で、その他の地図からは配置の空間的知識が作られやすいこと。

問6 傍線部E「サーリネンらの研究」とあるが、この研究が引用された目的として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 空間的知識の情報源が、それによって形成される認知地図の個人差を生むという仮説を提起するため。
- ② 大学生にとつては、地図から情報を得た者ほど正確な地図が描けるという見解を根拠づけるため。
- ③ 地図が認知地図の形成だけでなく、空間的知識を他者と共有するために役立つという主張を反証するため。
- ④ 地図と移動行動から得た空間的知識の量には違いがみられるというこれまでの研究結果を強調するため。
- ⑤ 認知地図の正確性には、認知地図を形成する情報源が関連するという立場を補強するため。

問7 傍線部F「ない」と同じ用法として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① いつも忙しくしているわけではない。
- ② これから読みたいと思う本は少なくない。
- ③ そうした事例は学校や企業ではみられない。
- ④ 使われていない施設があるのはもったいない。
- ⑤ 毎日宣伝したのに集客の効果が無い。

問8 傍線部G「空間を学習する際の状況に左右される」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 移動行動による学習から形成される認知地図の向きは固定されておらず、したがって地図と身体との向きが異なると混乱しやすい。
- ② 移動行動による学習から形成される認知地図の向きは固定されておらず、したがって地図と身体との向きが異なっても混乱しにくい。
- ③ 固定された地図の読図による学習から形成される認知地図の向きは固定されており、したがって地図と身体との向きが異なっても混乱しにくい。
- ④ 地図の向きを変えながらの読図による学習から形成される認知地図の向きは固定されておらず、したがって地図と身体との向きが異なると混乱しやすい。
- ⑤ 地図の向きを変えながらの読図による学習から形成される認知地図の向きは固定されており、したがって地図と身体との向きが異なっても混乱しにくい。

問9 傍線部H「**「整理」**が効果的かどうかは、使用される場面によっても違ってくる」とあるが、整理された地図が効果的と考えられる場面として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 地図を見ながら、会議で新規に開業する店舗の立地を決める。
- ② 地図を見ながら、家族で夏休みに行く海外旅行の行き先を考える。
- ③ 地図を見ながら、商店街の中で最近オープンしたケーキ屋を探す。
- ④ 地図を見ながら、卒業旅行で行くテーマパークの候補地を友達と相談する。
- ⑤ 地図を見ながら、通学に使う電車の経路を検索する。

問10 傍線部I「状況に応じて使い分ける」とあるが、この意味に最も近い四字熟語を、次の

- ① ①～⑤の中から一つ選びなさい。
- ① 我田引水
- ② 多種多様
- ③ 二律背反
- ④ 面従腹背
- ⑤ 臨機応変

問11 傍線部J「縮尺に応じて異なる指針が示されている」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 海外の街中にある案内図は、必ずしも見る人の向きに合わせて整理されているわけではないことを踏まえ、海外からの来訪者にも分かりやすい表示方法を示すため。
- ② 近隣地区を表す地図では、見る人の向きに合わせて地図を表示しないと混乱を招いてしまうことを踏まえ、示す範囲によって分かりやすい表示方法を示すため。
- ③ 公共サインのデザインは、自治体ごとに地図の適切な縮尺を設定することが求められることを踏まえ、大田区民にとって最も分かりやすい表示方法を示すため。
- ④ 地図の読解力には地図の利用経験などによる個人差があることを踏まえ、北の方向がどちらに示されているとも分かりやすい表示方法を示すため。
- ⑤ 地図の用途によって、理解しやすい表示方法が異なることを踏まえ、案内図だけでなく路線図の利用者にも分かりやすい表示方法を示すため。

問12 地図から得た空間的知識の性質と移動行動から得た空間的知識の性質との組み合わせとして、本文の内容をふまえた上で最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- | | | | |
|---|----------------|----------------------|------------------------|
| ① | 認知地図のスタイル | 【地図から得た
空間的知識の性質】 | 【移動行動から得た
空間的知識の性質】 |
| ② | 認知地図と現実の地図との違い | ルートマップ型 | サーベイマップ型 |
| ③ | 認知地図の個人差 | 大 | 小 |
| ④ | 空間を捉える参照枠(系) | 対象中心的 | 自己中心的 |
| ⑤ | 空間を捉える視点 | 複数 | 単一 |